

2014（平成26）年度 事業計画

社会福祉法人山鳩会
幼児室ポッポ

1. 理念・方針

（1）法人理念

①障がいがある人に…

自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。

②障がいがある人の家族に…

障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。

③援助者には…

障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。

④地域の方に…

共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。

（2）中期目標（平成26年度～平成28年度）

大人との信頼関係を築き、友だちへの興味を育てる。家族の心の支えとなる。

（3）基本方針

① 人格の基盤となる「人との基本的信頼感」を築くため、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止め、支えていく。

② 子どもたちがのびのびと自分らしくふるまえるよう、職員の在り方や環境整備を考えて保育にあたる。一人ひとりに即した遊びを見つけ、遊びを通して自己表現できるよう支援する。

③ 感性豊かに心身の発達を促すことのできるよう、自然からのエネルギーをたくさん体感できる保育内容を行う。

④ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行う。

⑤ 社会の変化に伴い、孤立を深める母親や家庭の多様なニーズを敏感にとらえ、各家庭にそった支援を行う。

⑥ 行事を通して子どもたちの発達を促すと同時に、母親に対しても子育てを知る機会となる場を提供する。

2. 施設概要

- | | |
|---------|-----------------------|
| （1）施設種別 | 指定障害児通所支援事業（児童発達支援事業） |
| （2）利用定員 | 10名（平成26年度利用者数14名） |
| （3）開所年月 | 平成25年4月 |

(4) 施設規模	敷地面積	685.07㎡
	延床面積	36.85㎡(あきつの園の建物の中の一 corner)
	建物構造	鉄筋コンクリート造(地上2階建ての1階部分)
	賃貸区分	(土地)市有地 (建物)所有

3. 職員構成

(1) 雇用契約あり

職 種	配置人数
管理者	1名
児童発達支援管理責任者	1名(兼務)
支援員 (常勤職員)	0名
保育士 (常勤職員)	2名
調理員 (常勤職員)	0名
事務員 (非常勤職員)	0名
支援員 (非常勤職員)	0名
保育士 (非常勤職員)	4名
調理員 (非常勤職員)	0名
看護師 (非常勤職員)	0名
理学療法士 (非常勤職員)	0名
作業療法士 (非常勤職員)	0名
指導員 (非常勤職員)	4名
合 計	11名

※常時7～8名で支援にあたる

(2) 嘱託

小児神経科医師	(4回/年)	1名
看護師	(1回/年)	0名
理学療法士	(1回/月)	0名
作業療法士	(2回/月)	0名
ケーススタディー講師	(8回/年)	1名
リトミック講師	(3回/年)	1名
合 計		3名

4. 利用者状況

(1) 障害程度

	1度	2度	3度	4度	未定	合計
愛の手帳	0名	0名	0名	0名	14名	14名
身障手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名
精神保健手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(2) 年齢構成 (平均年齢 3.5歳)

	新入園児		継続児		計
	男	女	男	女	
1歳児	0	0	0	0	0
2歳児	1	0	0	0	1
3歳児	4	1	1	0	6
4歳児	0	0	4	1	5
5歳児	0	0	1	1	2
計	5	1	6	2	14

(3) 担当福祉事務所

東村山市	東久留米市	練馬区	入間市			合計
14名	0名	0名	0名			14名

(4) 障害程度区分

区分	2	3	4	5	6	未定	合計
人数	0名	0名	0名	0名	0名	14名	14名

5. 日課

(1) 生活日程

8:45	送迎車出発
9:50	園到着、自由遊び
10:30	集まり、散歩
12:20	手洗い、昼食、自由遊び
13:30	片付け、おやつ、紙芝居、絵本読み聞かせ
14:00	送迎車出発
15:20	送迎車帰着

6. 重点目標

(1) 一人ひとりの障がいや心身の特性に応じた支援を行う。

- ①体制が変わってもこれまで同様基本方針は変えないで、一人ひとりを大切にする支援を行う。
毎日の細かな振り返りをし、柔軟に新たな対応策を考えて、職員間で共有する。
- ②職員全体の支援の質を上げる。発達や障がい特徴をとらえるために日々勉強し、スーパーバイザーの先生に日常保育における子どもの様子や支援の在り方を見てもらい、アドバイスを受ける。
- ③他機関とも密に連携をとり、情報を得て日々の支援に生かす。

(2) 市内の保育園の受け入れ体制の変化にともなうポッポの新たな役割への対応を行う。

- ①働く母親への支援を行い、同時に母子の時間の大切さも伝える。
- ②子育てが困難な母親への支援を行う。
- ③一方で療育の視点からのアプローチを行う。

(3) 年間行事予定

4月	新入園児母子通園(1~2週間)
5月	親子遠足(所沢航空公園)、小児神経科医師の診察・相談(新入園児対象)
6月	水遊び開始、親子焼そば会
7月	夏期保育、個人面談、
8月	夏期保育、夏休み、
9月	バザー、水遊び終了
10月	親子芋掘り遠足
11月	運動会、親子遠足(市バスで昭和記念公園)
12月	個人面談、小遠足(八国山)
1月	冬休み
2月	豆まき、お別れ遠足、ホットケーキ作り
3月	小児神経科医師の診察・相談(卒園児対象)、個人面談

(注)

誕生会 誕生月毎に行う。

個人面談 年3回、保護者と成長について話し合う。その他必要に応じて行う。

個別支援計画 ・モニタリング

年2回ずつ、保護者との話し合いや説明の機会を持つ。

個別指導 個別支援計画に基づき行う。また、必要に応じて行う。

保護者会 年12回、母親の仲間意識と支えあいの気持ちを育て、子育てについて共に考える。
気軽に話ができるよう2グループに分けて行う。

リトミック 年3回、専門講師によって行う。

7. 防災訓練

災害時の利用者の安全を図るため、防災計画に基づき、月1回の防災訓練を行う。

8. 施設外の方との関係

地域に向けて情報を発信し、行事(秋津青葉子育てまつり)に参加してポッポの理解につなげる。

9. 実習生の受け入れ

- (1) 交流実習を行い、他施設の長所を学んだり、卒園後の集団において理解してもらえるよう話し合いの機会を持つ。
- (2) 職場体験実習の受け入れ。

10. 親の会との連携

- (1) バザー・運動会に参加する。
- (2) 親の会総会資料及び親の会便りを配布して活動内容を知ってもらい、在園中の入会について説明する。

11. 職員研修

- (1) 視野を広め、子どもや社会への理解を深める。
 - ①新日本医師協会東京支部主催、乳幼児の発達の部門の研修(年数回)
 - ②白梅学園大学教育・福祉研究センター主催、白梅子ども学講座(年数回)
 - ③他施設主催の研修会・交流実習・見学(年数回)
- (2) 経営の健全化や運営の適正化の推進、サービス内容の質の向上を図る。
東京都福祉保健局主催、東京都福祉保健財団主催の研修(年数回)

12. 会議予定

種 目	回 数	内 容
職員会議	2回/週	子どもの様子について話し合う・研修報告
評価会議	6回/学期	学期末に子どもの成長と課題について話し合う
厨房会議	0回/月	
ケース会議	1回/月	幼児相談室とのケース会議・情報交換
ケア担当者連絡会議	1回/月	市子ども育成課・幼児相談室・保育園との会議

13. 苦情解決、個人情報保護、権利擁護、セクシャルハラスメント防止

- ①子どもの権利を守る。
- ②苦情解決については、第三者委員を設置し対応に当たる。

苦情解決

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者	常盤 愛子
第三者委員	江幡 房江

セクシャルハラスメント

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者(男性)	押金 稔
担当者(女性)	常盤 愛子